

1. 事業の概要

(1) 趣旨

7泊8日の移動型キャンプで、登山・自炊などの活動を、仲間と共に、最後までやり抜くことを通して、何事にも自信を持って取り組める力を育む。

(2) 期日

事前キャンプ 平成30年7月15日(日)～16日(月)(1泊2日)

本キャンプ 平成30年8月4日(土)～11日(土)(7泊8日)

(3) 対象

①参加対象 小学校5、6年生 中学校1、2年生 ②募集人員 18名

③参加人数 21名 (応募総数28名)

群馬県前橋市8名、桐生市3名、榛東村2名、高崎市1名、吉岡町1名、みどり市1名、みなかみ町1名、東京都町田市1名、埼玉県久喜市1名、千葉県柏市1名、栃木県栃木市1名

(4) 企画運営のポイント

①登山をメインとしたプログラムで、長七郎山・黒檜山・駒ヶ岳・鍋割山・榛名富士の6つの山を登り、赤城山から榛名山まで徒歩で移動する。(総距離約70km、標高差約3,000m)

②生活体験を重視し、自分のことは自分でやることを徹底する。

③毎日振り返りシートで、テーマ「挑戦・協力・感謝」を意識させながら振り返りを行い、自分と向き合う時間を十分にとる。

④生活面においては、「あいさつ・食事・うんち」の3つのテーマで基本的な生活態度を養い、規則正しい生活を送れるようにする。

⑤ボランティアの事前研修(7/7-8)で、安全管理も含めた登山講義や実地踏査を実施する。

日程

7月7日(土)	・前橋市赤城少年自然の家～鍋割山登山～国立赤城青少年交流の家 ・事業概要説明 ・長期キャンプのボランティアの役割 ・登山講義
8日(日)	・国立赤城青少年交流の家～榛東村創造の森キャンプ場(徒歩)



<創造の森キャンプ場間近>



<本キャンプ中間の振り返り>

(5)プログラム内容

①事前キャンプ

日	月	日	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	宿泊場所	
1	7	15	日					受付	事前説明会 ※保護者も参加	オリエンテーション 自己紹介 アンケート	昼食		A あかぎアドベンチャープログラム			入浴	夕食	B スプーン・フォーク 名札作り		荷物整理	就寝	国立赤城 青少年 交流の家
2	7	16	月	起床	荷物整理	朝のつどい	朝食	清掃	退所点検	テント設営研修	野外炊事研修(カレー&ご飯)			解散								

②本キャンプ

日	月	日	4:00	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	宿泊場所
1	8	4	土					受付	開校式	アイスブレイク ピーニング作り	昼食	テント設営 練習	野外炊事(ご飯&豚汁)			入浴	登山 講義	ミーティング 振り返り 健康観察	荷物整理	就寝	国立赤城 青少年 交流の家
2	8	5	日	起床 荷物整理 健康観察	朝のつどい	朝食	清掃	退所点検	車移動 (交流の家～ 小沼駐車場)	長七郎山(1,579m)登山 (小沼駐車場～長七郎山～自然の家)		テント設営	荷物整理	入浴	休憩	夕食	ミーティング 振り返り 健康観察	荷物整理	就寝		
3	8	6	月	起床 健康観察	朝食 荷物整理	おにぎり作り			C 黒檜山(1,828m)・駒ヶ岳(1,685m)登山 (自然の家～黒檜山・駒ヶ岳～自然の家)			入浴	ミーティング 振り返り	荷物整理	夕食	就寝			前橋市 赤城少年 自然の家		
4	8	7	火	※雨天により 地藏岳 日の出登山 中止		起床 健康観察	1日の 計画立案	野外炊事 (洋食モーニングセット)	休憩	これまでの 振り返り	野外炊事 (ハンバーグセット)	D フォトフレーム作り	休憩	入浴	E 野外炊事 (焼きそばセット)	ミーティング 振り返り 健康観察	荷物整理	就寝			
5	8	8	水	起床 健康観察	朝食 荷物整理	おにぎり作り		F テント 撤収	鍋割山(1,332m)登山 (自然の家～鍋割山～交流の家)			休憩 荷物整理	入浴	夕食	ミーティング 振り返り 健康観察	荷物整理	就寝		国立赤城 青少年 交流の家		
6	8	9	木	起床 荷物整理	朝食 健康観察	G 徒歩移動(24km) (交流の家～榛東村創造の森キャンプ場)			休憩	入浴 (しんとう温泉 ふれあい館)	夕食	ミーティング 振り返り 健康観察	荷物整理	就寝					榛東村 創造の森 キャンプ場		
7	8	10	金	起床 健康観察	朝食 荷物整理	おにぎり作り		徒歩移動(15km) (榛東村創造の森キャンプ場～榛名富士登山口)			H 榛名富士(1,391m)登山	バス 移動	入浴 (伊香保温泉 石段の湯)	バス移動 (交流の家へ)	夕食	ミーティング 振り返り 健康観察	キャンドル ファイヤー	就寝		国立赤城 青少年 交流の家	
8	8	11	土	起床	荷物整理	朝のつどい	朝食	清掃	退所点検	振り返り・アンケート	I 開校式	解散									

ボランティア事前研修の効果(7/7-8)

1泊2日で担当職員とボランティアスタッフが現地を下見し、移動ルートを実際に歩いた。安全管理も含めた登山講義や実地踏査を実施することで、本番に備えた準備を入念にすることができた。



A 参加者同士、初めての出会いの中、あかぎアドベンチャープログラムで、仲間づくりを行った。



B 本キャンプに向けて、それぞれ工夫を凝らして、自分用のスプーン・フォーク・名札作り。

登山講義の内容

5日からの登山実施に向けて、安全管理も含めた登山講義を実施した。体調管理や登山中の約束事など、安全第一での登山を心がけるように、講義を進めた。長七郎山登山の中でも、この講義で学んだことを振り返りながら、登山を行った。



I 閉校式での個人の振り返りの発表。「挑戦・協力・感謝を大事にして、これからの生活に生かしたい。」と力強く発表していた。



H 榛名富士登頂。参加者21人全員が榛名富士を登頂し、キャンプ中の約70kmの全行程を終えた。



C 日本百名山であり、赤城山最高峰の黒檜山登頂へ向けて、登山中。

休息日の効果

長期の事業のため、4日目に休息日を設けた。準備、調理、片付けの流れを自分達で考えることで、主体的・対話的に活動ができていた。自分のことは自分ですることはもちろん、仲間のことを考えた行動がたくさん見られ、ゆっくり体を休めることもできた。



D 限界突破キャンプの思い出づくりとして、フォトフレームを作製。フレームには、参加者同士でサインを書き合うなどの様子が見られた。



E 火起こし、食材切りなど、全て班ごとで協力しながら、焼きそばを作り、みんなで美味しく食べた。



F 自分のことは自分でやるねらいのもと、限られた時間内で、素早くテント撤収を実施。



G 交流の家から榛東村創造の森キャンプ場(24km)に向けて、徒歩移動中。写真は、中間地点の新坂東橋(利根川)にて。

(6) アンケート結果

①参加者の満足度（アンケート回収率100%）

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
キャンプ全体をとおしてはどうでしたか。	95%	5%	0%	0%

事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、「満足」が参加者全体の95%と高い割合を占め、この事業はおおむね好評であったと考えられる。プログラム内容、スタッフやボランティアの参加者に対する関わり方や助言・アドバイス等が適切であったと推察される。

(7) 成果

- ①「あいさつ・食事・うんち」の3つのテーマを掲げたことで、特にあいさつができるようになった。
- ②登山講義や登山中での実際の登山の仕方を指導することで、参加者が安全に登山をすることができた。
- ③毎日「挑戦」を意識しての振り返りを行うことで、総距離約70kmの行程を自分の足で移動することができた。
- ④仲間とテント設営や野外炊事などをして、寝食を共にすることで、協力すること・感謝することなどを学ぶことができた。

(8) 課題

- ①キャンプのテーマを設け、キャンプ後にはテーマに沿った変容が見られるようにプログラム内容を見直していく。
- ②詳細な雨天時プログラムを、次年度は作成する。
- ③今夏の猛暑のことを考えると、熱中症など懸念事項が生じるおそれがあるため、次年度は公道を歩く行程について検討する必要がある。

2. 限界突破キャンプ企画委員会

(1) 企画委員（5名）

今 泉 真 悟 氏 前橋市赤城少年自然の家 所長
岩 瀧 大 樹 氏 群馬大学教育学部 准教授
劔 持 雅 信 氏 ぐんま山森自然楽校 代表
瀧 直 也 氏 信州大学教育学部 講師
船 引 忠 雄 氏 群馬県教育委員会生涯学習課 課長

(2) 限界突破キャンプ企画委員会日程

第1回 5月17日（木） 企画検討、チラシ・開催要項の検討
第2回 6月29日（金） 参加申込状況、細案の検討、アンケート調査の検討
第3回 11月 1日（木） 事業報告、アンケート調査の考察、報告書作成について